

東教育財団だより

発行所
公益財団法人
東教育財団
大阪市中央区南本町
2-2-11 堺筋本町
西尾ビル6階
電話06(6262)7363
発行責任者 長谷隆雄

謹賀新年

本年もよろしく
お願い申し上げます



平成二八年度の 助成事業を 募集します

東教育財団は、中央区内の学校教育及び社会教育の育成、並びに、地域文化の振興に寄与するため、学校教育活動、社会教育団体等が行う社会教育活動・生涯学習活動、並びに、地域文化・まちづくり活動に助成を行っています。

平成二八年度の助成事業は三月一日(火)から募集を開始し、三月十八日(金)に締切ります。

ご応募をお待ちしています。

助成対象事業

① 学校教育事業助成

中央区内の学校教育の充実・発

展に寄与し、且つ、当該校園の独自性や特色のある事業(一校園当りの助成限度額は予算で定める)



平成27年11月17日(火)開催「学校教育事業助成説明会」風景

(参考事例)

＊地域の歴史、伝統、文化、産業等に関する調査・学習事業

- ＊上記の調査・学習によって作成した冊子等の発行事業
- ＊外国人子女への日本語等指導事業
- ＊姉妹校交流(他文化交流・共生)事業

- ＊伝統芸能(文楽、能等)鑑賞事業
- ＊伝統芸能学習・発表事業
- ＊校内緑化等自然環境整備事業
- ＊クラブ活動に必要な用具・資材の購入・貸与事業

- ＊クラブ活動の地域交流事業(例・吹奏楽部が開催する地域コンサート)
- ＊クラブ活動等における全国大会への参加事業

- ＊学校周年記念事業(二〇周年を単位とする周年事業に限る)

② 社会教育・生涯学習事業助成

中央区内の社会教育や生涯学習の充実・発展に寄与する事業(一団体当りの助成限度額は予算で定める)

③ 地域文化・まちづくり事業助成

中央区内の地域文化や東地区五

地域のまちづくりの振興に寄与する事業(一文化事業及び一地域当りの助成限度額は予算で定める)

助成対象団体

① 学校教育事業助成

中央区内に所在する公立の幼稚園、小学校及び中学校

② 社会教育・生涯学習事業助成

社会教育・生涯学習の活動を行う社会教育団体及び生涯学習団体



平成27年11月18日(水)開催「社会教育事業助成説明会」風景

③ 地域文化・まちづくり事業助成
 地域文化・まちづくり活動を行う
 団体



平成27年11月19日(木)開催「地域文化事業助成説明会」風景

助成金審査員が替りました

助成金交付の透明性と公平性を担保するため、理事会の諮問機関として助成金審査会を設置し、専門的知識を有する学識経験者二名、財団役員二名、事務局員一名の計五名の審査員で構成しています。

平成二七年一〇月九日開催の第一七回理事会において、次のとおり審査員が選任されました。

専門審査員

佐藤 榮一 元開平小校長
 渡邊 紘一 坐摩神社宮司
 (いずれも新任)

財団役員

富樫 龍健 会計理事(再任)
 梅本 憲史 審査理事(新任)

事務局員

長谷 隆雄 事務局長(新任)

したがって、平成二八年度助成事業は、左の審査員の審査を受けることとなります。



平成27年10月28日(木)開催「助成金審査会審査員打合せ会」風景

助成事例の紹介

平成二七年度に助成した事業で、既に実施報告書の提出があったものを一部紹介します。

地域文化事業助成

「中大江校下夏祭り子供太鼓」



中大江小の四年生から六年生までの子供達が、七月一日から一〇日間、太鼓打ちの特訓を受け、祭り当日(7/11・12)、地域の子供達と大人のボランティア達が太鼓の音と掛け声を響かせながら徒歩巡行とトラック巡行を行い、地域住民の交流を図るとともに、地

域文化の一端に触れてもらった。

(助成額二〇万円)

地域文化事業助成

「子供獅子教室」

公募に応じた中央小の四年生以上の児童達が獅子教室で「獅子舞」を学び、地域の夏祭り(7/11・12)の巡行に参加した。このことにより、地域の文化財「獅子舞」の伝承・保存ができるとともに、世代・地域の交流が図られた。

(助成額一五万円)



地域文化事業助成

「豪商淀屋の關所から三二〇年」

設立一〇周年を迎えた淀屋研究会が、綿業会館で「豪商淀屋の關所から三二〇年シンポジウム」を開催し、淀屋關所事件の時代背景とその真相について、楽しみながら歴史の知識を深めてもらった。

(助成額二〇万円)



地域文化事業助成

「せんば鎮守の杜音楽祭・芸術祭」



今年で一〇周年を迎えるせんば鎮守の杜音楽祭・芸術祭が坐摩神社境内の野外ステージで一〇月三日に開催された。昼の部の「音楽祭」では、地元の音楽団体や文化団体にコーラスや演奏活動の場が提供され、夜の部の「芸術祭」では、篝火の明かりのもとでオペラとバレエが演じられた。

助成額 音楽祭二〇万円

芸術祭一〇万円

地域文化事業助成

「中央区バリアフリー上映会」

六月二〇日 中央会館において、視覚障がい者も楽しめる音声解説と聴覚障がい者も楽しめる日本語字幕が付いた上映会「バリアフリー上映会」を開催し、映画「ペコロスの母に会いに行く」と障がい啓発のデジタル紙芝居「盲導犬になりましたかった僕」が上映され、ソーシャルインクルージョンの第一歩が目指された。

(助成額一五万円)



学校教育事業助成

「聴覚特別支援学校
「芸術鑑賞」舞太鼓 あすか組」

迫力ある舞太鼓の様々な演技にふれ、叩き方による躍動感の違いや繊細さなどを体感し、音を感じる体験を通して、何事に対しても聴くという態度を養い興味を持ついい機会となった。

(助成額二七万円)



大阪歴史(迷)探訪

―水網都市・埋立都市―

大阪は、「水の都」といわれ、水に支えられて発展してきたまちである。

江戸後期の儒学者広瀬旭荘は「天下の貸七分は浪華にあり、浪華の貸七分は舟にあり」(『九桂草堂隨筆』)と大坂が「天下の台所」であり、日本の富の半分が大坂の舟の上にあるとしたが、それを支えたのは大坂の四通八達した水路(堀川)であり、大阪湾が冬でも波の静かな瀬戸内海という長い海上回廊の奥にあるという地の利であった。

加えて、古い文化を蓄積する京都とは五〇キロしか離れておらず、その間を淀川が流れ、二つの都市を結ぶ大動脈として舟運が水の都・大坂の繁栄を支えた。

豊臣期から江戸期にかけて、大坂では多くの堀川が開削された。豊臣期の治世下に東横堀川・西横堀川・天満堀川・阿波堀川が掘られ、合わせて延長五六町余(六・一一キロ)に及んだ。また、秀吉は背

割(大閘) 下水をつくり、その下水を堀川に流した。

江戸時代に入り、道頓堀川をはじめ、伏見京町から移住してきた町人たちにより京町堀川が、その北側に江戸堀川が開削される。続いて海部堀川、東横堀川から分流して木津川に合流する長堀川、西横堀川と木津川を結ぶ立売堀川、阿波堀川から分流して百間川に通ずる薩摩堀川が完成する。これらを合わせると九〇町(九・八二キロ)になり、運河の総延長は約一六キロに達した。

これらにより、水運がますます開かれ、天下の台所として発展したのであって、水の都大阪は「水網都市」ともいえる。

「なにわ」と称した昔の大阪は上町台地だけで、その東側も西側も海であった。西側の海・大阪湾には「難波八十島」が浮かんでおり、東側の海・河内湾は潟から湖へ、そして、大きな池(深野池・新開池)や湿地帯へと変化してきた。だから、秀吉が、上町台地の北側に大坂城を築き、その周辺に巨大な市街地を整備し、都市機能の集中を図るためには、多くの水

面を陸地にする必要があった。

多くの堀川の開削は、水運を開くと同時に、その掘った土を周りに積み上げ、土を乾かし、土地(陸地)を造るためでもあった。

我々の先人は、それぞれの時代の土木技術を駆使して、掘割を開削し、川違えをし、川浚えをし、堤を築き、水を抜き、土地を乾かし、土を盛り、埋め立てて新田を開発し、そして道をつくって、新たなまちをつくってきた。

このように大阪のまちの発展は埋め立て事業の歴史とともにあるといつてよく、水の都・大阪は「埋立都市」ともいえる。

「土一升に金一升」ということばがある。広辞苑によると「土地の価格の甚だしく高いことのと」とえ」と解説し、バブル経済華やかし折の土地の高騰のよりに説明されているが、大阪人のいう「

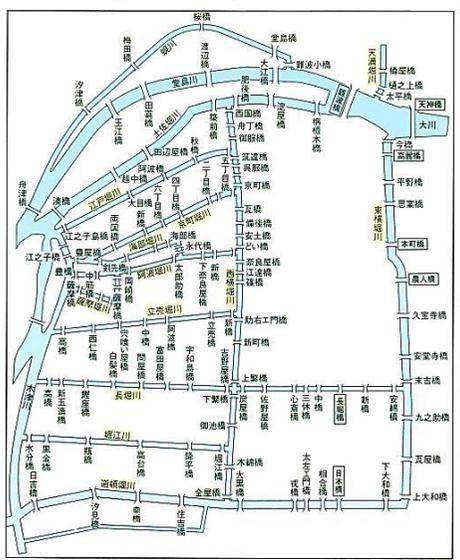
土一升に金一升」は、大阪の土地には多くの金と手間と時間がかかっているということであらわしているのである。

埋立都市である大阪は、自然の縁に恵まれず、公園も少ないといわれるが、水面は多い。東京都区部と名古屋は五%、横浜や広島市は三%に対し、大阪市は一〇%もある。この一割の水面は自然財産をどのように活用するかによって、水の都・大阪のこれからの都市としての役割が決まると思う。

(槇野 勝・記)

本のコマ欄の投稿を喜びます。テーマはおおむね「二〇〇〇字程度をお願いします」。

宝永(1704~1715)の頃の堀川と橋



財団法人 大阪市土木技術協会発行「大阪の橋」より